

## (1) 複式教育研究会

### 1. 研究主題

「自ら考え、表現できる児童の育成～個別最適な学びと、協働的な学びを充実させた授業づくり～」

### 2. 研究経過

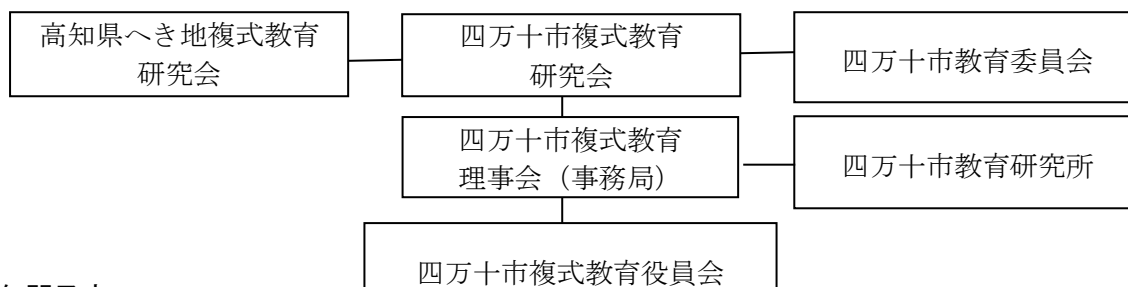
#### ①R5年度会長・副会長・事務局・会場

会長	三原小学校
副会長	下田小学校
事務局（研究集録の取りまとめ）	三原小学校
研究大会の会場校	三原小学校
研究大会の期日	令和5年10月25日（水）

#### ②役員

会長	嵐 廣喜	三原小学校 校長	輪 番
副会長	上田 壯	下田小学校 校長	輪 番
事務局	才市 美奈	三原小学校 教頭	輪 番
理 事	上田 壯	下田小学校長	
	門田 典弘	東中筋小学校長	
	永野恵理香	中筋小学校	
	弘瀬 利英	大用小学校長	
	濱口 明大	利岡小学校長	
	石川 真紀	蕨岡小学校長	
	太宰 三和	八束小学校長	
	島田 敏和	西土佐小学校長	

#### ③研究組織



#### ④年間予定

第1回 理事会	令和2年度から中止
組織総会	令和2年度から中止
指導案検討会→会場校で	令和2年度から会場校のみで実施
研究大会：三原集会	令和5年10月25日（水）午後
第2回 理事会	令和2年度から中止

## ⑤会則

四万十市 複式教育研究会・新会則（R3年度～）

第1条 この会は、「四万十市複式教育研究会」と称する。

第2条 この会は、複式指導の研究並びに複式校の学力の向上を図ることを目的とする。

第3条 この会は、四万十市の複式校に勤務する教職員とこの趣旨に賛同する者をもって組織する。

第4条 この会は、目的達成のため、次の事業を行う。

（1） 研究大会

第5条 この会の組織として次の部を置く。

◎ 校長部会（理事会） ◎ 事務局

第6条 この会に次の役員を置く。任期は総会から次年度総会までの1ヶ年とする。

役員名	人数
会長	1名
副会長	1名
理事	各校1名
研究部長	1名
事務局	1名

第7条 役員の仕事は次の通りとする。

- （1） 会長は会を代表する。
- （2） 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
- （3） 理事は各校を代表する。
- （4） 研究部長は会の推進を担う。
- （5） 事務局は庶務全般にあたる。

第8条 役員を選出は次の通りとする。

- （1） 会長・副会長・事務局は輪番とする。
- （2） 理事は、原則として各学校の校長が引き受けるものとする。

## 内 規

○本複式教育研究会に、三原村立三原小学校も組織の一員として加盟する。

○本研究会の研究大会が三原小学校で開催される年度には、研究大会にかかわる費用を三原村教育委員会が予算措置する。

## ⑥役員輪番予定

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
会長	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
事務局	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
会場校	蕨岡小	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小
副会長	大用小	中筋小	三原小	下田小	東中筋小	利岡小	八束小	蕨岡小

大用小→中筋小→三原小→下田小→東中筋小→利岡小→八束小→蕨岡小→大用小…（固定順）

※副会長は次年度の担当校の校長とする（R2年度から）

### 3. 研究大会（三原集会）

日 時 令和5年10月25日（水） 14:20～16:45  
 会 場 三原村市立三原小学校 高知県幡多郡三原村柚ノ木47番地  
 日 程

14:00	14:20	15:05	15:20	15:35	16:35	16:45
受	公開授業（6校時） （各教室）	休	開	基	講 演	閉
付		憩	会	調	（体育館）	会
				提		
				案		

### 授 業

学級名	教科名	単 元 名	授 業 者	児 童 数
1・2年	算数	1年「ひきざん」 2年「新しい計算を考えよう」	今堀 友雅	1年 3名 2年 5名
ひまわり	算数	1年「ひきざん」	土居 万理	1年 1名
3 年	算数	3年「まるい形を調べよう」	桑田 千登勢	3年10名
4 年	算数	4年「計算のやくそくを調べよう」	柿内 創	4年 8名
5 年	算数	5年「分数のたし算、ひき算を広げよう」	松田 栄飛	5年 9名
6 年	算数	6年「比例の関係をくわしく調べよう」	佐々木 雅晃	6年 8名

### 講 演

講師 宿毛市立咸陽小学校 田村 いづみ 教頭  
 演題 「主体的な学びに向かう複式の授業づくり ～全へき大会を経て～」

### 4. 今年度の成果と課題

- 自分から友達に聞きにいたり、自由に集まって課題を解決したりする姿が見られ、困り感のある児童が減ってきている。児童同士で学び合って解決する力がついてきた。
- ペア学びや学び合いを通して、課題解決に向かう個の学びが深まってきた。また、友達の考えを聞くことで多様な解決方法について考えることができだしている。
- 講演会の感想として、「ベクトルをそろえる大切さ」に触れた内容がたくさんあり、児童の主体的な学びを支える組織の取組についてもご教授いただいた。
- 個人の考えから一般的な考えに統合するには、学びを深める時間を確保することが課題である。
- 児童から気づきや率直な意見が出た時、切り返し全体で考えていくことで深い学びへと導いていけるので、言葉にこだわって授業を展開していく必要がある。